

第1部 基礎的調査項目

暮らしや仕事

1 広島市への居住経緯

(1) 広島市に住むようになった経緯

どのような経緯で広島市に住むようになったかを尋ねたところ、「子どもの頃からずっと広島市に住んでいる」が38.1%と最も多く、次いで「広島市又はその周辺以外の出身で、就職などにより、広島市に住むようになった（いわゆるIターン）」(21.4%)、「広島市又はその周辺の出身で、進学や就職などにより、他の地域に引っ越したが、再び引っ越して、広島市に戻って住むようになった（いわゆるUターン）」(13.5%)の順になっている。

(2) 広島市に住むようになった理由（複数回答）

「子どもの頃からずっと広島市に住んでいる」と答えた人以外に広島市に住むようになった理由を尋ねたところ、「広島市又はその周辺で仕事があるから」が56.4%と最も多く、次いで「親族や知人がいるから」(15.1%)、「広島市又はその周辺の学校に進学したから」(10.1%)の順になっている。

2 結婚等

(1) 結婚の状況

結婚しているかを尋ねたところ、「結婚している」が72.6%、「結婚していたが現在は単身」が9.9%、「未婚」が15.6%となっている。

(2) 共働きの状況

「結婚している」と答えた人に共働きをしているかを尋ねたところ、「している」が41.4%、「していない」が54.4%となっている。

3 普段の日（平日）の自由時間

普段の日（平日）にどの程度自由時間があるかを尋ねたところ、「6時間以上」が30.5%と最も多く、次いで「2～3時間未満」(14.7%)、「1～2時間未満」(13.4%)の順になっている。

4 自由時間の過ごし方

(1) 普段の日（平日）（複数回答）

普段の日（平日）の自由時間の過ごし方は、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの見聞き」が70.4%と最も多く、次いで「インターネット、スマートフォン等の利用、テレビゲームなど」（45.3%）、「家族とのだんらん」（34.2%）、「何もしないでのんびりする」（30.5%）、「ショッピング、飲食」（29.7%）の順になっている。

(2) 週末などの休日（複数回答）

週末などの休日の自由時間の過ごし方は、「ショッピング、飲食」が50.9%と最も多く、次いで「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの見聞き」（49.6%）、「家族とのだんらん」（44.2%）、「インターネット、スマートフォン等の利用、テレビゲームなど」（35.2%）、「趣味・娯楽」（34.7%）の順になっている。

(3) 3日以上連続した休暇（複数回答）

3日以上連続した休暇の自由時間の過ごし方は、「行楽、旅行」が41.1%と最も多く、次いで「ショッピング、飲食」（40.3%）、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの見聞き」（39.3%）、「家族とのだんらん」（37.4%）、「趣味・娯楽」（28.4%）の順になっている。

5 自由時間の過ごし方への満足度

(1) 自由時間の過ごし方への満足度

自由時間の過ごし方に満足しているかを尋ねたところ、「はい」が57.3%、「いいえ」が37.6%となっている。

(2) 『満足していない』理由（複数回答）

自由時間の過ごし方に満足しているかという問いに対して「いいえ」と答えた人にその理由を尋ねたところ、「金銭的余裕がない」が44.4%と最も多く、次いで「仕事、家事・育児などで自由時間があまり取れない」（39.6%）、「休日が少ない」（23.3%）、「休暇が取りにくい」（21.1%）、「家族などとの時間が合わない」（14.8%）の順になっている。

6 自由時間が増えた場合の自由時間の過ごし方

(1) 普段の日（平日）（複数回答）

自由時間が今より増えたとしたら、主にどのようなことをしたいかを尋ねたところ、普段の日（平日）では、「趣味・娯楽」が 31.2%と最も多く、次いで「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの見聞き」（31.1%）、「何もしないでのんびりする」（30.6%）、「軽い運動」（25.2%）、「ショッピング、飲食」（25.1%）の順になっている。

(2) 週末などの休日（複数回答）

自由時間が今より増えたとしたら、主にどのようなことをしたいかを尋ねたところ、週末などの休日では、「ショッピング・飲食」が 33.4%と最も多く、次いで「趣味・娯楽」（31.8%）、「家族とのだんらん」（28.7%）、「行楽、旅行」（28.1%）、「何もしないでのんびりする」（24.9%）の順になっている。

(3) 3日以上連続した休暇（複数回答）

自由時間が今より増えたとしたら、主にどのようなことをしたいかを尋ねたところ、3日以上連続した休暇では、「行楽、旅行」が 51.1%と最も多く、「ショッピング、飲食」（27.5%）、「趣味・娯楽」（26.8%）、「家族とのだんらん」（24.9%）、「何もしないでのんびりする」（20.1%）の順になっている。

7 仕事

(1) 職業

「パートタイマー、臨時・非常勤雇用者」（11.4%）、「専門・技術職」（10.7%）、「事務職」（9.6%）を含めた『勤め』が約半数（49.8%）となっている。次いで「商業、サービス業、工業」（5.6%）、「自由業」（1.9%）、「農業、林業、水産業」（1.4%）を合わせた『自営、家族従事』が 8.9%となっている。また、『勤め』と『自営、家族従事』を合わせた就業者は約 6 割（58.7%）、「専業主婦、専業主夫」（16.3%）、「無職」（17.1%）、「学生」（2.3%）を合わせた非就業者は 35.7%となっている。

(2) 勤務場所

就業者の勤務場所は、「中区」が 23.9%と最も多く、次いで「西区」（14.0%）、「安佐南区」（12.3%）、「南区」（12.0%）、「安佐北区」（7.4%）の順になっており、広島市内に勤務する人が約 8 割（83.6%）となっている。

(3) 片道通勤時間

就業者の普段の片道通勤時間は、「10分～30分未満」が 38.4%と最も多く、次いで「30分～1時間未満」（29.2%）、「10分未満」（13.7%）の順になっており、『30分未満』（「自宅が職場」、「10分未満」、「10分～30分未満」を合わせたもの）が約 6 割（58.7%）となっている。

(4) 主な通勤手段

主な通勤手段は、「自動車」が37.0%と最も多く、次いで「自転車」(15.1%)、「徒歩」(10.6%)、「バス」(9.9%)、「鉄道(JR)」(6.6%)の順になっている。

(5) 1週間の就業時間

1週間の就業時間は、「40～48時間」が30.9%と最も多く、次いで「49～59時間」(16.5%)、「30～39時間」(12.2%)の順になっており、『40時間以上』(「40～48時間」から「80時間以上」までを合わせたもの)が約6割(58.6%)となっている。一方、『40時間未満』では、「30～39時間」(12.2%)、「20時間未満」(11.9%)、「20～29時間」(10.6%)の順になっている。

8 所属団体等(複数回答)

所属する団体等を尋ねたところ、「町内会・自治会」が38.1%と最も多く、次いで「老人クラブ」(5.5%)、「ボランティア団体」(3.6%)の順になっている。一方、「団体等には所属していない」が約4割(43.4%)となっている。

第2部 トピック調査項目

1 市政への評価・期待

(1) 以前と比べて良くなっているもの（複数回答）

市政について「以前と比べて良くなっている」と思うものとしては、「平和への取組」が38.7%と最も多く、次いで「ごみ処理やリサイクルの推進」(32.0%)、「国際交流や国際協力の推進」(31.4%)、「観光・イベントの振興」(29.8%)、「防災・減災対策」(27.4%)の順になっている。

(2) 今後、もっと力を入れて欲しいもの（複数回答）

市政について「今後、もっと力を入れて欲しい」と思うものとしては、「高齢者福祉」が47.1%と最も多く、次いで「保健・医療の充実」(46.5%)、「防犯対策」(45.4%)、「交通安全対策」(43.4%)、「道路整備」(41.7%)の順になっている。

2 将来の公共サービスの在り方

公共サービスの水準と将来世代への負担の関係がどうなるのがよいと思うかを尋ねたところ、「将来世代への負担を今以上に回さないよう市の借金を一定程度に抑え、現在の公共サービスの水準を一定程度に抑えた方がよい」が54.2%と最も多く、次いで「将来世代への負担を減らしていくため、現在の公共サービスの水準を下げることはやむを得ない」(13.4%)、「現在の公共サービスの水準を維持・向上させるため、将来世代への負担が増えることはやむを得ない」(10.5%)の順になっている。

3 まちのイメージ（複数回答）

広島市を将来どのようなまちにしたいかを尋ねたところ、「犯罪が少なく、マナーやモラルの良いまち」が71.9%と最も多く、次いで「災害による危険性の少ないまち」(63.4%)、「保健・医療・福祉が充実したまち」(59.6%)、「安心して子どもを生み育てることができるまち」(55.5%)、「交通の利便性の良いまち」(48.2%)の順になっている。

4 現在のまちの姿

(1) 自分の住んでいる地域の活気

自分の住んでいる地域が以前と比べてどのようになったと思うかを尋ねたところ、「とても活気が増している」(6.1%)、「やや活気が増している」(18.4%)を合わせた『活気が増している』が24.5%となっている。また、「やや活気がなくなっている」(28.1%)と「とても活気がなくなっている」(7.8%)を合わせた『活気がなくなっている』が35.9%となっている。

(2) 活気が増していると思う理由（複数回答）

自分の住んでいる地域の『活気が増している』（「とても活気が増している」、「やや活気が増している」を合わせたもの）と思う理由は、「地域に住宅が増えているから」が42.8%と最も多く、次いで「地域の人口が増えているから」(37.6%)、「商業施設が増えているから」(36.9%)、「子どもが増えているから」(36.6%)、「地域行事・イベントが増えているから」(20.2%)の順になっている。

(3) 活気がなくなっていると思う理由（複数回答）

自分の住んでいる地域の『活気がなくなっている』（「やや活気がなくなっている」、「とても活気がなくなっている」を合わせたもの）と思う理由は、「子どもが減っているから」が73.8%と最も多く、次いで「若者が減っているから」（47.8%）、「商業施設が減っているから」（31.3%）、「地域の人口が減っているから」（28.1%）、「地域に空き家が増えているから」（27.6%）の順になっている。

5 将来のまちづくりの方向性

公共交通へ歩いてアクセスしやすい場所に、住まいや医療・福祉などの施設を誘導するコンパクトなまちづくりを進めることについて、どのように考えているかを尋ねたところ、「必要である」が59.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば必要である」（28.3%）、「どちらかといえば必要ない」（3.4%）の順になっている。また、「必要である」、「どちらかといえば必要である」を合わせた『必要だと考えている』が約9割（87.8%）となっている。

6 交通環境

(1) 交通環境の改善（複数回答）

交通環境の改善に向けて、広島市は、今後、どのようなことに力を入れていけばよいと思うかを尋ねたところ、「朝・夕の交通渋滞の解消に努める」が48.8%と最も多く、次いで「老朽化した道路や橋りょうなどの点検を行い、これらの効果的・効率的な維持保全を推進する」（43.4%）、「公共交通を利用しやすくするため、乗継案内や運行状況などの情報が適切に利用者に提供されるよう交通事業者に働き掛ける」（35.4%）、「放置自転車・バイクの撤去や駐輪場整備を推進する」（30.3%）、「ユニバーサルデザインによる公共交通の整備を行うなど、全ての人にやさしい交通環境づくりを進める」（30.1%）の順になっている。

(2) 公共交通を使いやすくしていくために重要だと思う取組（複数回答）

公共交通を使いやすくしていくために、どのような取組が重要だと思うかを尋ねたところ、「乗り継いでも直通と同程度の運賃となる乗継割引の拡充などにより、わかりやすく使いやすい運賃体系を構築する」が50.8%と最も多く、次いで「便数の増加や運行時間の拡大などにより、利用しやすいダイヤを設定する」（50.4%）、「公共交通の利便性が低い地域への乗合タクシーやデマンド運行の導入などにより、新たな交通手段を確保する」（32.1%）の順になっている。

(3) より一層自転車が活用されるために必要だと思うこと（複数回答）

今後、通勤や、通学、買物、観光など様々な場面でより一層自転車が活用されるために、どのようなことが必要だと思うかを尋ねたところ、「自転車道や自転車レーンなど安全で快適な自転車走行空間の整備を推進する」が59.1%と最も多く、次いで「自転車安全教育による自転車の交通ルールの徹底やマナーなどの向上を推進する」（57.0%）、「公共交通の駅付近などに新たな駐輪場を整備する」（46.5%）の順になっている。

7 観光・交流（複数回答）

広島を訪れる人々に対し、広島をより知ってもらうため、どのようなところを紹介したいと思うかを尋ねたところ、「原爆ドーム」が75.2%と最も多く、次いで「平和記念資料館（原爆資料館）」（73.0%）、「カキ、お好み焼き、汁なし担担麺、瀬戸内海の小魚などの食べ物」（58.1%）、「広島城・縮景園」（42.8%）、「広島東洋カープやサンフレッチェ広島の試合」（41.4%）の順になっている。

8 求める就労条件（複数回答）

仕事を選ぶに当たって重視することを尋ねたところ、「職場の人間関係が良好であること」が46.3%と最も多く、次いで「家庭や病気などの事情に配慮してもらえること」（38.2%）、「収入が多いこと」（35.9%）の順になっている。

9 メンタルヘルス

(1) 日常生活での悩みやストレスの有無

日常生活の中で悩みやストレスがあるかを尋ねたところ、「ある」が64.5%、「ない」が31.8%となっている。

(2) 悩みやストレスの原因（複数回答）と最も大きな悩みやストレスの原因

日常生活の中で悩みやストレスが「ある」と答えた人にその原因を尋ねたところ、「自分の健康や病気」が36.6%と最も多く、次いで「収入、家計、借金」（34.2%）、「家族の健康や病気、介護」（30.5%）、「家族以外の人との人間関係」（23.1%）、「自分の仕事、事業などの経営」（20.9%）の順になっている。

最も大きな悩みやストレスの原因は、「収入、家計、借金」（9.7%）、「家族の健康や病気、介護」（7.9%）、「自分の健康や病気」（7.7%）、「自分の仕事、事業などの経営」（7.7%）、「家族以外の人との人間関係」（6.7%）の順になっている。また、無回答が約4割（40.4%）となっている。

(3) 悩みやストレスの相談先（複数回答）と特に気になる悩みやストレスの相談先

日常生活の中で悩みやストレスが「ある」と答えた人にその相談先を尋ねたところ、「家族」が55.0%と最も多く、次いで「友人、知人、職場の同僚」が45.1%であり、この二つが特に多くなっている。一方、「相談したいが、だれ（どこ）にも相談できないでいる」が8.9%、「相談したいが、だれ（どこ）に相談したらよいかわからない」が6.1%、「相談する必要はないので、だれ（どこ）にも相談していない」が11.6%となっている。

特に気になる悩みやストレスの相談先についても、「家族」（22.6%）と「友人、知人、職場の同僚」（12.7%）が多くなっている。また、無回答が約半数（50.1%）となっている。

10 健康づくり（複数回答）

健康づくりのために普段どのようなことに気を付けているかを尋ねたところ、「適正体重の維持や減塩、野菜の摂取など健康的な食生活」が 56.1%と最も多く、次いで「十分な睡眠や休養」(54.2%)、「1年間に1回以上の健診や人間ドックの受診」(47.3%)の順になっている。

11 地域包括ケアの推進（複数回答）

高齢者ができる限り住み慣れた地域で、在宅のまま人生の最期まで安心して暮らし続けるために重要だと思うことを尋ねたところ、「趣味を持つこと」が 60.4%と最も多く、次いで「友人・仲間づくり」(48.5%)、「若いときからの健康づくりや介護予防」(44.1%)の順になっている。

12 教育

(1) 学校教育の中で特に身に付ける必要があると思うこと（複数回答）

学校教育の中で、特にどのようなことを身に付ける必要があると思うかを尋ねたところ、「相手のことを思いやる心」が 72.4%と最も多く、次いで「自ら学ぼうとする意欲」(68.4%)、「人間関係を築く力」(66.2%)、「社会生活に必要な常識」(54.2%)、「自分の考えを表現する力」(53.9%)の順になっている。

(2) 地域の中で子どもたちを育むために重要だと思う取組（複数回答）

地域の中で子どもたちを育むため、どのような取組が重要だと思うかを尋ねたところ、「子どもに対する礼儀やしつけの教示」が 62.5%と最も高く、次いで「子どもの安全を確保するための地域活動の推進」(59.6%)、「文化活動やスポーツ活動など、子どもの個性を伸ばす取組の推進」(45.0%)の順になっている。

13 地域活性化

(1) 地域のまちづくり活動への参加

ア これまで参加した活動（複数回答）

これまでどのような「地域のまちづくり活動」に参加したことがあるかを尋ねたところ、「祭りや伝統文化継承のための活動」が 30.7%と最も多く、次いで「スポーツ活動」(21.9%)、「子どもの見守りや声掛け活動」(21.1%)、「花の植栽や清掃などの地域の美化活動」(21.1%)、「交通安全活動」(13.7%)の順になっている。また、「特になし」が 30.5%、無回答が 11.0%となっている。

イ 今後参加したい活動（複数回答）

「地域のまちづくり活動」への参加経験の有無に関わらず、今後参加したい活動は何かを尋ねたところ、「子どもの見守りや声掛け活動」が 16.0%と最も多く、次いで「花の植栽や清掃などの地域の美化活動」(15.7%)、「高齢者や障害者に対する福祉活動」(14.9%)、「祭りや伝統文化継承のための活動」(14.1%)、「スポーツ活動」(13.6%)の順になっている。また、「特になし」が 10.4%、無回答が 40.4%となっている。

ウ 参加したことがない理由（複数回答）

これまで「地域のまちづくり活動」に参加したことが「特にない」と答えた人にその理由を尋ねたところ、「参加するきっかけがない」が48.7%と最も多く、次いで「どんな活動が行われているか知らない」(39.2%)、「時間に余裕がない」(34.3%)の順になっている。

(2) 地域の活性化やコミュニティの再生に向けて重要だと思うこと（複数回答）

地域の活性化やコミュニティの再生に向けて、どのようなことが重要だと思うかを尋ねたところ、「地域行事やイベントを開催すること」が38.2%と最も多く、次いで「地域活動の担い手となる人材の育成を進めること」(37.1%)、「町内会・自治会などによる地域活動を活性化させること」(32.4%)の順になっている。

1.4 環境と経済活動が調和した社会の実現（複数回答）

将来、エネルギーや食料の不足などが懸念される中で、環境と経済活動が調和した社会を実現していくため、どのような取組が重要だと思うかを尋ねたところ、「太陽光や風力など自然エネルギーの利用の促進」が62.9%と最も多く、次いで「地域で取れる農林水産物を消費する地産地消の推進」(44.1%)、「農地の保全や森林保護、緑化対策の推進」(42.7%)の順になっている。

1.5 災害に強いまちづくり（複数回答）

災害に備えて、広島市は今後、どのようなことに力を入れていけばよいと思うかを尋ねたところ、「道路や河川における土砂災害防止のための工事、がけ崩れ防止対策などを推進する」が59.6%と最も多く、次いで「避難場所や避難路を整備する」(52.7%)、「情報の収集・提供体制を整備し、市民に迅速かつ的確な情報提供を行う」(50.9%)、「高齢者、障害者、乳幼児などに対する安全確保の体制づくりを進める」(45.0%)、「食料、水、生活必需品などの備蓄を充実する」(41.1%)の順になっている。

1.6 平和への取組（複数回答）

核兵器廃絶を目指すヒロシマは、今後、どのようなことに力を入れていけばよいと思うかを尋ねたところ、「広島・長崎講座の開設や修学旅行の誘致、平和学習の充実など、被爆体験を風化させないための取組を推進する」が67.5%と最も多く、次いで「平和に関する国際会議や原爆展の開催など、世界の人々に核兵器の恐ろしさ、平和の大切さを発信する取組を推進する」(62.0%)、「子どもたちに対する平和教育を充実する」(59.3%)の順になっている。